

# 中国人大学生 技術者に育成

## テクノスマイル、事業軌道に



ミニカー組み付けの練習

### 来月 国内車部品メーカー配属

製造業向け総合人材サービスのテクノスマイル（福岡県宮若市、馬見塚讓社長、0949・522・3232）が進めるアジア人エンジニア育成事業が軌道に乗り始めた。中国・天津大学などで採用した天津8期生19人がこのほど来日、入社前研修を終え10月1日から国内自動車部品メーカーに配属される。今後はタイやミャンマーでの採用も始める。理工系技術者の不足に苦しむ国内メーカーに、優秀な海外人材を売り込む。

（北九州支局長・大神浩一）

テクノスマイルの現地法人・天津育豊人材培训中心は天津大学、天津科技大学などと提携し、日本企業の説明会を年間5回程度行っている。同説明会には500人程度が参加し、このうち100人程度が日本行きを希望登録する。

この100人を30〜40人に絞り込み、1年

間無料の日本語習得クラスを開講する。

受講を通じて本人の意欲や適性を見極め、最終的に日本での就労を希望する20人程度をテクノスマイルが正社員として採用し、日本企業に派遣する。

国内の人材不足に対応できるほか、中国や東南アジア諸国連合（ASEAN）に進出する際に必要となる基幹人材の育成が主な目的だ。

9月中旬に来日した8期生19人は、福岡県築上町にある同社北九州研修所で団体訓練やビジネススマナーのほか、日本での生活に不可欠なゴミの分別方法や買い物の仕方などの

生活習慣を学んだ。入社を経て、10月から契約企業に配属される。配属後も定期的に面談を続け、雇用を継続するか、配属企業へ転籍するか、中国へUターンするかなどを3〜5年かけて調査する。

19人はほぼ全員が大卒で機械設計や情報処理などを学び、複数の資格も習得している。多くは日本語能力試験「N2」も取得済みだ。全員が自国技術の遅れを指摘する一方で「中国はまだ発展途上だが、やがては世界の工場からメーカーへ育つ」（孫逸微さん）、

「50年後、100年後には日本や米国に負けない、世界で勝てる国になる」と信じている」（胡修華さん）などと、熱く夢を語った。受け入れ側も期待している。中部地区の大手自動車部品メーカーは「日本では理工系技術者の確保が非常に難しくなっている。仕事を覚え、将来は中国をはじめ海外の管理・監督者として期待している」と話した。テクノスマイルは今後もアジア人学生の教育と雇用を続け、国内製造業各社にグローバル人材として送り込む。

これからも少子高齢化、製造業離れなど、日本企業を取り巻く環境は厳しい。海外の優秀な人材確保は、中堅・中小企業でも進めそ